

吉野川は、四国三郎とも呼ばれる大川です。河口から第十堰の14.5kmまで、日本最大級の汽水域を有し、河口に広がる干潟は、シオマネキの群生地であり、またシギ・チドリ類など渡り鳥の重要な中継地として「東アジア・オーストラリアフライウェイパートナーシップ(シギ・チドリ類重要生息地)」の参加地になっています。

吉野川河口の生態系は、河口域から紀伊水道の漁場を支え、多くの生態系サービスを生み出す源です。さらに、環境省の「ラムサール条約湿地潜在候補地」や「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定され、自然環境の豊かさと生物多様性の高さは、国内外で認められています。

しかし、川・海・陸が出会うという河口の地理的特性から法制度が複雑に絡み合い、また行政上の管轄も複雑に入り組んでいることから、河口汽水域環境の保全上様々な課題を抱えています。

この度、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事務局長スパイク・ミリントン氏をお招きし、渡り鳥や湿地保全の現状についてご講演をいただくことになりました。

さらに、吉野川河口の持つ価値や重要性について、吉野川を訪れる渡り鳥からその役割を知り、その干潟を支える生物多様性について理解を深めるため、様々な立場の人たちからも話題提供をしていただきます。

このフォーラムを通じて、徳島の宝である吉野川の河口干潟の様々な価値についても一度確認し、私たちの暮らしを支える吉野川の豊かさを見つめなおすことにより、これからの河口干潟や河口域のあり方について考える機会になれば、と期待しています。



Program 13:00~17:00

進行/河口 洋一(徳島大学理工学部准教授)

開会のあいさつ

近森 憲助 実行委員長

[第1部] 13:00~14:20

世界や日本全体の視点から吉野川をみる

■ 基調講演

「東アジア・オーストラリア地域フライウェイの渡り性水鳥と沿岸生息地の保全」

スパイク・ミリントン氏
(東アジア~オーストラリア、フライウェイネットワーク事務局長)



■ 講演

「吉野川にみる日本の河口域の開発と保全の20年」

清野 聡子氏
(九州大学大学院工学研究院)



シジミ漁



シオマネキ



藍染め

トビハゼ

[第2部] 14:30~17:00

吉野川のこれまでとこれから ~河口に注目して~

「吉野川河口域と人とのかかわり」

近森 憲助 (鳴門教育大学特命教授)

「吉野川銀行」

井口 利枝子 (とくしま自然観察の会)

和田 太一 (NPO法人南港ウエットランドグループ)

「世界とつながる吉野川河口域」

東條 秀徳 (日本野鳥の会徳島県支部)

「吉野川における近年の汽水域の管理と住民参加(仮)」

国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所

「徳島県における生物多様性に関する取り組み(仮)」

徳島県

「河川環境における公共工事による水鳥への影響」

前川 聡 ((公財)世界自然保護基金ジャパン)

「吉野川河口と環境アセスメント」

志村 智子 ((公財)日本自然保護協会)

■ ミニトーク

「これから私たちにできることは何か。」

柏木 実 (NPO法人ラムサール・ネットワーク日本)

スパイク・ミリントン、清野 聡子、

近森 憲助、河口 洋一

■ Q & A / 意見交換

とくしま自然観察の会

[HP] <http://www.shiomaneki.net/>

[Facebook] <https://www.facebook.com/とくしま自然観察の会-1494890044105141>

とくしま自然観察の会-1494890044105141



▼会場あんない

